Report for Creating Peace and Happiness
Musashino University Creative Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol.131
2024 年 10 月 21 日発行

言語聴覚障害児者の地域支援と社会のアドボカシーの醸成にむけて

研究員　北義子　上間清司　畠山恵
嶋田真理子（専攻科　言語聴覚士養成課程）※2023 年度
伊藤敬市　高橋美夏（卒業生）ほか 12 名

【背景】言語聴覚士は言語聴覚障害児者に対しコミュニケーション支援を担う医療系の国家資格である。言語や聴覚に支援が必要な児童は増加傾向であり、言語聴覚士による支援が望まれている。しかし、制度は未整備であり、支援方法も未確立である。また社会において言語聴覚障害児がしあわせを実現するためには、アドボカシーが確立されることも必要である。このため私たちは、個別的な方向性と社会的な方向性の両面からその実現を模索した。研究メンバーは言語聴覚士養成課程の教員と卒業生を中心に、他の研究機関や療育・相談機関の言語聴覚士、全国難聴児親の会、きょうだい児の会、当事者の会、補聴器関連協会の方などからなり、総勢 18 人に及んだ。

【活動その１】個別事例的な探求

武蔵野大学言語聴覚コースの中に臨床ラボを設け、４事例について、武蔵野大学教員や卒業生による発達評価および訓練プログラムを提供した。評価した２事例には言語学習能力に特殊性が認められ、今後の言語および教科学習に示唆が得られた。訓練を行った２事例には言語発達にそれぞれ伸びが認められた（2023 年 5 月～2024 年 3 月）。

【活動その２】社会的活動

ⅰ）聴覚障害当事者とその家族のため「第 2 回聴覚フェスティバル 2023－多様な聞こえを考える－」を開催した。医師や当事者による講演や最新の補聴機器の展示などを通して当事者や身近な人が相互に響きあって聴覚について理解を深め、自己と他者を再発見する機会を創生した。298 名の聴覚障害当事者や保護者、言語聴覚士、補聴器代理店、人工内耳・聴覚補助システムメーカーなどの参加があった。（2023 年 9 月）。

ⅱ）聴覚障害児の保護者に対して、養育上の困難さに関するアンケート調査を行った（2023 年 7 月～9 月）。全国難聴児親の会や聾学校等の協力を得て、1000 件以上の回答を得、言語聴覚学会などで結果を発表した。

【あとがき】活動を通し、当コースが社会や当事者の方々の生活に貢献できた。また、活動が学生にとり、あるべき臨床家の姿を学ぶ機会となり、資格取得への強い動機となった。

臨床ラボ　指導場面

ケース会議

聴覚フェスティバルスタッフ全員で

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University

Musashino University Creating Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所　　電話：03-5530-7730
東京都江東区有明３－３－３　　メール：mhi@musashino-u.ac.jp